

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	地震と安全		
担当者(Instructors)	倉橋 奨	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

日本では地震をはじめとして様々な自然災害(地震、水災害、土砂災害)が多発している。自然災害から、国土・インフラ・地域・我が身を守るためには、そのメカニズムを知り対策する必要がある。本講義は、地震を中心とした自然災害のメカニズムを理解したうえで安全への対策を考えることができることを目的とする。講義は、災害の実態、原因、対策について過去の事例を用いた解説が中心であるが、規則・規制、地域防災などソフト面についても触れる。なお、質問等の受付については、授業内に指示する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	自然災害の仕組みと対策	自然現象と災害と対策の仕組みを学ぶ	<input type="checkbox"/>
第2回	災害と地形・地質 1	災害と密接に関連する地形と地質について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第3回	災害と地形・地質 2	愛知県内の濃尾平野、岡崎平野、豊橋平野の形成と特徴について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第4回	地震災害 1	地震のメカニズム(特に地震のタイプ、マグニチュード、震度)について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第5回	地震災害 2	地震被害(特に海溝型地震と内陸地震の特徴)について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第6回	地震災害 3	地震被害の対策(地震動の特徴、地震動の予測など)について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第7回	水に関する災害 1	豪雨により発生する外水氾濫、内水氾濫について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第8回	水に関する災害 2	地震および台風で発生する津波と高潮について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第9回	土に関する災害 1	地下水のくみ上げや地震等で発生する地盤沈下と液状化について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第10回	土に関する災害 2	豪雨等により発生する斜面崩壊、地滑り、土石流について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第11回	都市災害	市街地火災、ライフライン災害について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第12回	被害想定・ハザードマップと避難情報	被害想定・ハザードマップと避難情報について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第13回	災害に関する規則・規制	災害対策基本法を中心とした災害に関する規則・規制について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第14回	地域防災	地域防災の必要性、地域防災の具体例について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第15回	まとめと定期試験	本講義のまとめと定期試験(小論文形式)を実施	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

インターネットや本などにより、講義内容のキーワードを参考に情報収集し、予習をすること(2時間)。講義時に配布するプリントにより、講義内容を復習をすること(2時間)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回配布する講義プリントは、穴埋め形式となっているため、講義を聴講しながらプリントをまとめる。適宜、課題を出すため、復習を兼ねて実施すること。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	(1)我々の生活基盤である自然環境を理解できる。生活を脅かす災害とその原因を追究できる。生活を守るための解決方法を考えることができる。 (2)そのために災害のメカニズム、被害を引き起こす要因について理論的に理解し、起こりうる災害について予測し、災害を最小限にとどめる対策を考察できる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	0%	100%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
成績は、筆記試験（成績評価配分60%）とレポート（成績評価配分40%）で評価し、成績評価が60%以上の場合、単位認定する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	防災工学 澁田邦彦ほか著 コロナ社	
2	防災工学 鈴木猛康編著 理工図書	
3		
4		
5		